

平成 26 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
 (地域公共交通調査事業) 交付申請事業

補助対象事業者名 燕・弥彦地域公共交通会議 (単位：円)

補助対象事業の 名称及び内容	補助対象事業の着手 及び完了予定日	補助対象経費	補助金額
地域公共交通調査事業 ・現状把握、分析 ・住民アンケート調査 ・巡回バス利用者調査 ・住民説明会資料作成	交付決定日～ 平成 27 年 3 月 31 日	5,003,200	5,003,200

地域公共交通調査事業の実施に関する計画

1. 当該地域の公共交通の概況・問題点

弥彦村は、新潟県のほぼ中央部、日本海側に位置し、北は新潟市、西は長岡市、東と南は燕市と隣接しています。本村の村域は東西 5.94km、南北 6.92km、面積は 25.16k m²で、村西部は弥彦山(標高 634m)を主峰とする南北の山岳地を隔てて日本海に臨みます。

村の人口は、平成 22 年国勢調査人口では 8,582 人で、子育て支援と教育施策の充実、宅地造成を中心とする住環境改善への積極的な取り組みを進めた結果、平成 17 年調査 (8,545 人) と比較した場合、新潟県内で人口が増加した数少ない自治体の 1 つとなっています。しかし、年齢 3 区分人口では、0～14 歳の年少人口比率が大きく低下し、65 歳以上の老年人口比率が拡大していることから、少子高齢化が進んでいます。

村の交通状況について、鉄道は、隣接する燕市と三条市の境界にある上越新幹線燕三条駅と交差する J R 弥彦線が村の中央部を東西に走り、弥彦駅が終着駅となっています。その弥彦線は、燕市の吉田駅で J R 越後線とも交差しており、鉄道交通の要所として多くの村民が利用しています。

道路体系は、国道 289 号の延長にある主要地方道吉田弥彦線、及び弥彦山麓を南北に走る主要地方道新潟寺泊線を中心に、村道が村内各地へスムーズにアクセスができるよう整備されています。

村内の公共交通は、平成 15 年 6 月に民間事業者による路線バス運行が撤退したことから、現在は J R 弥彦線 (弥彦駅、矢作駅) 及び村営の無料巡回バス (3 系統) だけになっています。村営の無料巡回バスは、車両を保育園の通園バス、小中学校児童生徒の通学バスと共通利用しての運営となっているため運行に制約があり、公共交通として十分な機能をはたしていないのが現状です。また、無料巡回バスは、村民の生活圏として必要不可欠である燕市へ乗り入れしておらず、利用人数も少数であることから、利便性の向上を図る必要があります。鉄道についても、通勤、通学時間帯を除くと約 2 時間に 1 本程度しかなく、主要公共交通としては非常に乏しい状況です。

こうした状況の中、より良い公共交通の整備は、自家用車以外に交通移動手段を持たない村民の生活の支えとして、重要な政策課題の 1 つです。

2. 地域の公共交通の確保維持改善に係る計画の策定調査の必要性

弥彦村民の生活圏として必要不可欠である燕市が行っている地域公共交通事業と連携しながら、弥彦村の地域公共交通について効率よく実施するため、「燕・弥彦地域公共交通会議」を設置し、下記の事項について取り組みを行います。

1) 地域公共交通の見直し

使い勝手が悪く、利用者の少ない現在の村営巡回バスを抜本的に見直し、改善することが必要です。鉄道とバスの役割を明確にし、基本的な交通体系を再構築するための調査が必要です。

2) 高齢者のニーズに適う移動サービスの提供

今後、高齢者は確実に増加するため、高齢者が買い物や通院などに利用しやすい地域公共交通を提供することが必要です。冬季の悪天候などを考慮すると、バスとドアツードアのサービスを提供するデマンド交通を基本に、高齢者のニーズに応じた移動サービスの提供に向けた調査が必要です。

3) 燕市との定住自立圏構想への取り組み

総務省が提唱する定住自立圏構想への取り組みを隣接する燕市と弥彦村で行う中で、現在燕市が行っている地域公共交通を基本に、地域公共交通確保維持改善事業の地域間幹線系統として平成 27 年 10 月弥彦村から燕市へ乗り入れることができる循環バス路線の整備、フィーダー系統としてデマンドタクシーのエリア拡大を行うために、弥彦村民の住民意向を踏まえた見直しが必要です。

3. 調査の内容	
調査の名称	調査の内容
1. 現状分析、把握	<p>○公共交通確保維持改善の必要性について既存資料から整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域概況（人口分布、高齢化、通勤・通学、道路網 等） ・生活関連施設状況（医療、学校、商業、行政 等） ・公共交通の実態（路線網、便数、利用者数、運行経費 等）
2. 住民アンケート調査	<p>○公共交通改善案(①地域公共交通確保維持改善事業の地域間幹線系統：弥彦村・燕市間の幹線バス②フィーダー系統：デマンドタクシー)に対する村民の意向を把握し、潜在需要も含む需要予測を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村内世帯に1,000票配布（回収率50%を想定） ・調査項目 <p>①目的別の利用交通手段の現状と現状の公共交通の評価 ②弥彦・燕間の幹線バス、デマンドタクシーに対する利用意向 ③幹線バス等の利用しやすい条件</p>
3. 巡回バス利用者調査	<p>○現在運行している巡回バス利用者にヒアリングして、公共交通利用者の声を直接把握し、公共交通改善案へ反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング実施期間は2週間 ・調査項目 <p>①利用状況（利用頻度、目的地） ②現状の公共交通サービスの評価（満足度、不満・改善点） ③公共交通改善案の意向・不安・改善要望</p>
4. 住民説明会資料作成	<p>○定住自立圏構想への取り組みに伴う燕市と連携した新たな公共交通への移行に伴う住民説明会実施に必要な資料を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通改善案の必要性、需要予測 ・新たな路線計画

4. スケジュール				
以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（←→）、または横棒線（——）で記載				
調査の名称	4月	9月	12月	3月
1. 現状分析、把握	交付決定——	7	アンケート ——	住民意向分析——
2. 住民アンケート調査		7——	9	
3. 巡回バス利用者調査		8——	9	
4. 住民説明会資料作成			9——	11月～住民説明会実施

5. 予算計画			
調査の名称	総事業費 (見込み)	国費 (見込み)	地域の負担 (見込み)
1. 現状分析、把握	792千円	792千円	0千円
2. 住民アンケート調査	1,623千円	1,623千円	0千円
3. 巡回バス利用者調査	1,689千円	1,689千円	0千円
4. 住民説明会資料作成	799千円	799千円	0千円
5. 協議会開催等事務費	100千円	100千円	0千円
合 計	5,003千円	5,003千円	0千円